

ソフトバレーボール ルールQ & A

Q1	試合中、キャプテンが交代してベンチに下がった場合、ベンチからキャプテンの権利を行使できる。	×
キャプテンは、コート内にいる間は、競技の中断中に、主・副審に対して、競技者交代またはタイムアウトの要求、競技規則適応の解釈についての質問とすることができます。しかし、試合中、ベンチにいる間はその権利を失います。この場合、コート内の競技者からゲームキャプテンを選び、自身の交代時に主審に届けなければなりません。		
Q2	試合中、監督が選手としてコート内に入った場合、ベンチ内の他のメンバーの中から代理監督を指名し、その権利を移譲する。	×
監督は、競技者交代またはタイムアウトを要求することができます。しかし、競技者としてコート内にいるときは、その権利を失います。また、代わりに人を監督にすることはできません。		
Q3	試合中、監督はいかなる場合でも審判員の判定に対して異議を申し出ることができない。	
監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し出ることが許されません。コート内にいるキャプテンだけが許されています。		
Q4	試合中、競技者交代またはタイムアウトの要求は監督だけが許される。	×
ベンチの監督とコート内のキャプテンがタイムアウトの要求ができます。		
Q5	試合中、サービスする時は、ジャンピング・サービスは、ジャンプで着地した後コート内に踏み込めば反則である。	×
コート手前でジャンプしてボールをヒットした後は、コート内に入っても反則とはなりません。ただし、コート内でジャンプした場合は反則です。		
Q6	サービスは主審の吹笛後10秒以内にボールを打たなければならない。	×
サーバーは、主審のサービス吹笛後5秒以内にボールを打たなければなりません。		
Q7	主審の吹笛以前に行われたサービスは相手の得点になる。	×
主審の吹笛以前に行われたサービスは、無効となり打ち直しになります。		
Q8	サービスはタイミングをとるために床にドリブルすることは許される。	
サービスのトスは、一度しかできないがボールを手の中で動かしたり、タイミングをとるために床にドリブルするところは許される。また、ボールをトスせず、片方の手の平に乗せたまま、ヒットしてもよい。		
Q9	サービスの動作を途中でやめて打ち直すことができる。	×
一連の動作を途中でやめると反則になります。		
Q10	サービスが打たれた時、フロント・レフト (FL) の競技者の両足の間に、同じライト (FR) の競技者の両足が入って位置した時、FRの左足が、LFの左足より右になっているので反則でない。	×
フロント・レフト (FL) の右足がフロント・ライト (FR) の右足がより右側にあるのでアウトオブポジションです。		
Q11	サービスが打たれた時、フロント・ライト (FR) の競技者の両足の間に、バック・ライト (BR) の競技者の両足が入って位置した時、FRの前足よりも、BRの前足が後ろなので反則でない。	
フロント・ライト (FR) の前足先端よりバック・ライト (BR) の前足先端が後ろなのでアウトオブポジションにならない。		
Q12	二人以上の競技者交代をする場合は、要求の際その人数を示さなければならない。	
2人以上の競技者交代をする場合は、要求の際その数を示さなければならない。		
Q13	競技者交代を要求したチームは、競技が再開されないうちに連続して、競技者交代を要求することができる。	×
競技者交代を要求したチームは、競技が再開されないうちに連続して、競技者交代を要求することはできない。		
Q14	タッチ・ネットはボールをプレーしようとしていないときに偶然に触れた場合は反則とはならない。	
タッチ・ネットは、ボールをプレーしようとしていないときに、偶然に触れた場合は反則とはならない。		

Q15	パッシング・ザ・センターラインの反則で、センターラインを完全に踏み越しても、その足の陰がライン上に残っていれば反則でない。	
パッシング・ザ・センターラインの反則で、片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。		
Q16	プレー中、ネット下の支柱に身体が触れた場合は、タッチネットの反則ではない。	
支柱に触れても反則とはならない。ただし、支柱にネットが巻いている場合に、そのネットに触れると反則になります。ネットを結ぶ紐は支柱部分は反則とはならない。		
Q17	プレー中、アンテナに手が触れた場合は、ネット部分に触れなければ反則とならない。	×
アンテナもタッチネットの反則になります。		
Q18	ネットとアンテナに同時にボールが触れたとき、サービスされたボールを除きその後プレーを続けることができる。	
ボールの支柱、ネット、アンテナなどへの接触は、サービスされたボールを除きその後プレーを続けることができます。 ネット上端(2m)の水平帯以下の支柱に触れたとき。 ネットとアンテナに同時に触れたとき。		
Q19	ライン上に落ちたボールの判定は、上から見て、ボールの半分以上がコート内にあればボール・インとなる。	×
ボールが、コート区画線を含むコート内に接触したとき、そのボールはインとなる。		
Q20	ライン上の判定で、主審とラインズマンの判定が違った場合、ラインズマンの判定が優先される。	×
主審のジャッジが絶対の権限があります。		
Q21	1回目のレシーブ・ボールが、支柱外側を通り相手方コート外(通過)にとんだ場合、そのボールを追って同じ支柱外側から味方コートに返し、プレーを続けることができる。	×
ボールが全部通過した時点でボールデッドとなります。		
Q22	ヒットすれば反則となるアタック(相手サーブをアタック)を、オーバー・ネットでブロックした場合、アタック側(プレーヤー)の反則となる。	×
サービスされたボールを、アタック・ヒットして、ボールがネットを通過した時点でアタックヒットの反則です。ボールがネットを通過していないためオーバーネットの反則となります。		
Q23	相手方のアタックをネット上を越えてブロックした場合、ボールに触れた時点ですべて反則となる。	×
ネットによって分けられた相手のコート上にあるボールに触れたときが反則で、自分のコート上は反則とはならない。		
Q24	相手方アタックをネットの上方でブロックをしたが、ボールとの接触点がネット上端より低い位置だった場合、ボールの接触点が低ければ、ブロックとは見なさない。	×
ブロックとは、競技者がネットに接近して相手方から送られてくるボールを、ネットの上端より上方で阻止する行為をいう。ブロックは、ボールがブロッカーに触れたとき完了し、接触点が低くてもブロックとなります。		
Q25	味方ブロックの後のプレーで、二人が同時にボールに触れた場合、そのチームは、あと2回のプレーで相手方に返球することができる。	
チームの第1回目の打球のとき、ボールが身体の2箇所以上に連続して当たってもよい。ただし、その接触は、一つの動作中のものに限られます。		